



MELニュース

(2019年3月 第12号)

(一社) マリン・エコラベル・ジャパン協議会
事務局

春は、はじまりの季節であり、別れの季節でもあると言われます。桜の開花宣言とともに、日本中が花に埋まる美しい景色が北上を始めます。その中で相変わらず春の食卓を彩る魚の不漁が報道されています。何れも関係者による真剣な資源管理が行われている魚であり、その意味では「自然に勝る強者はいない」という言葉を噛みしめています

MEL ニュースも創刊以来ようやく1年を迎え様としています。会員、認証取得者、様々なご関係の皆様と MEL をつなぐ大切なツールになりつつあると感じています。事務局一丸となって頑張りますのでどうかよろしくご指導とご支援をお願いします。

1. GSSI 承認に関して

今月は我慢の月でした。専ら GSSI の審査員 (IE) からの指摘や助言に対応し MEL の規格を精緻化するための作業に終始しました。

GSSI 承認プロセスの上で次のステップに進むための必須条件である、認証機関

(日水資) の認定機関 (JAB) による認定を判断する「認定委員会」が 28 日に開催され、1 月の認定委員会で継続審議となっていた課題がクリアされようやく認定に至りました。幾つかの条件は付いていますが、日水資が業務を通して対応可能と受けとめております。既に提出されています GSSI 審査員 (IE) からの審査報告の事務局によるチェックを経て Benchmark 委員会での審議に進みます。

ここからは MEL の審査を担当した 3 人の審査員 (IE) と委員会委員との間のやり取りになりますので、更に我慢が続くこととなります。MEL としては粛々と GSSI 承認取得後の活動の準備を進めます。

2. MEL 理事会開催について

3 月 22 日に定例の理事会を開催しました。

主要議題は、来年度の事業計画および予算の承認でした。特記事項としては、事業計画では、GSSI の承認が得られることを前提とし、時間とともに進化し事業内容を充実させ、日本の水産業と社会のお役に立つという基本方針の下に、

- ①アドバイザーボード等外部からの助言をいただきながら、活動の活性化と透明化を推進する。
- ②「3.6 宣言ネットワーク」(後述) 活動の推進により、マーケットとの接点の強化とともに既認証者の新規格への移行を誘引する。
- ③GSSI が要求するマネジメントレビューの確実な実施により、スキームオーナー、認証機関、認定機関が関わる認証スキームの進化と透明性を促進する。
また、認証機関の複数化を急ぎ制度運営の安定化を図る。
- ④スキームの進化に継続的に取り組み、日本の水産業の特長生かしながら国際標準化された MEL にふさわしい活動の実践に努める。
- ⑤積極的に内外のイベントに参加し、資源管理や活動の実態を発信する。特に日本同様の多様性を持つアジア諸国に対し、「日本発の世界に認められる MEL」の認知度向上を進める。
- ⑥認証取得者の事業活動を支援し、認証取得の意味が実感される活動を進める。特に輸出性向の強い事業者に対し、具体的な支援策を講じ、認証商品の輸出促進に寄与していく。
また、消費者に近い団体や事業者と連携し消費者に対する認知度の向上と浸透を促進する。
- ⑦予算については、収入は本年実績より約 50%の増の 16.5 百万円を見込み累損の圧縮に努める。勿論、スキームオーナーとして自立のためにはまだまだ不足であり、引き続き会費収入と事業収入の増加に努める。
国庫よりの補助金は、前年比半減の 27.6 百万円を計上したが、使途は前年の認証規格の開発と GSSI の審査費用重点から普及および内外への発信に軸足を移す。

事業計画および予算の他、諸規程について CoC 認証に基づく認証機関への要求事項の細部を具体化する、会員等からいただいた寄付金を基本財産に繰り入れることに関し定款の一部を変更する、また審査機関の複数化のための公募に申し込みのあった(公財)海洋生物環境研究所と覚書を締結する、以上が承認されました。6 月下旬に開催予定の総会に上程させていただきます。

3. 新 MEL 規格による初めての認証証書授与式について

GSSI が承認審査において求める漁業、養殖、CoC 各 1 件と、JAB が認定審査において求める審査立会漁業、養殖、CoC 各 1 件については MEL ニュースで既にご報告した通り実施されました。うち、漁業認証における、由比港漁協、大井川港漁協のさくらえび 2 そう船引網漁業については、資源状態確認のため 3 月 26 日に開始された春漁のデータを見て認否の判断をする事となりました。既に、昨年秋漁も十分な親魚を確保するため操業をやめており、漁業者と研究機関(静岡水試)の協働

により模範的な資源と漁獲の管理が行われて来た漁業だけに、良い結果が出ることをお祈りします。

新MEL第1陣となる認証は、5団体・企業の漁業1件、養殖2件、流通加工4件の計7件となり、2019年3月6日に日水資により認証証書授与が行われました。認証は

- ・漁業認証 Ver2.0：北海道漁連 秋鮭定置網漁業
- ・養殖認証 Ver1.0：東町漁協 ブリ小割生簀養殖、(株)ヨンキュウ 陸上養殖
- ・CoC 認証 Ver2.0：東町漁協 養殖ブリ加工品製造、ぎょれん総合食品(株) 秋鮭加工品製造、北海道漁連 仲卸、中央魚類(株) 大卸

GSSIの審査のための認証の一部は既に昨年11月および12月に決定されていましたが、認証契約が正式に整うのを待って証書の発行と授与式を行ったものです。授与式では認証された5団体・企業のトップから今までの努力と今後の取組について熱い決意表明がありました。認証されました皆様の今までの努力に敬意を表するとともに心からお祝いを申し上げます。

授与式修了後、MELより「今日、新MEL認証を受けられた5団体・企業がフロントランナーとしてMELとともに日本の水産エコラベルの普及推進と社会への定着を通して、SDGs目標実現への貢献と日本の水産業を輝かせるためにネットワークを結成し協働して取組む」ことを提案、「3.6宣言」および「3.6宣言ネットワーク」として公表することを皆様の賛同を得ました。「3.6宣言」および「ネットワーク」は専門紙等に掲載されましたので詳細のご報告は省きます。



4. MEL 新規審査員養成研修会について

かねて MEL ニュースでご報告しております通り、日本で絶対的に不足しています水産エコラベルの審査員を養成するための研修会を実施しました。

3月5～7日に漁業+CoC、3月12～14日に養殖+CoCの日程で開催、公募による合計52名(重複受講を含む)が受講されました。組織からの受講が主力ではありましたが、有償にも拘わらず全国より個人の受講多かったことが特筆されます。

講習の内容は夫々の分野の審査に関する専門知識、ISO 関連修得、審査報告作成まで広範囲および、企画から教材準備、運営迄約1年を要しました。ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。

研習修了後試験が行われましたが、合格率はCoC80%、漁業75%、養殖50%でありました。合格者は審査員補としての資格が得られますが、審査員として活躍いただくまでの道のりはまだこれからです。

5. Boston における Seafood Expo で MEL のワークショップ開催について

世界3大シーフードショーの一つである Boston の Seafood Expo で MEL ワークショップを開催しました。MEL としての海外への発信は、昨年6月のローマでの COFI におけるプレゼンに次いで2回目ということになります。30名を超える(うち

2/3は外国人)参加者があり、様々なご意見をいただきました。参加の多かったディストリビューターからは水産エコラベル付きの商品が欲しいという意見が目立ちました。今回は、新 MEL 認証を取得された皆様の代表として東町漁協から中菌康彦様、中央魚類から星野美保様に参加いただき、ワークショップにも登壇いただきました。

東京大学の八木先生、GSSI の Herman 事務局長にもプレゼンいただくとともに、今回作成しました MEL の紹介ビデオも映写しました。



また、東町漁協様の鯛王のブリとヨンキユウ様のタイをフレッシュで持ちこみ、大水の輸出促進事業と JETRO の協働により日本パビリオンで開催された寿司デモンストレーションで提供し大好評を得ました。東町漁協様、ヨンキユウ様にお礼申し上げます。



6. 広報活動

ようやく広報にも手が回るようになってきました。3月5～8日に幕張メッセで開催されました FOODEX JAPAN に出展しました。シーフードショーとは異なり中々来場者との接点を持ちにくい展示会ですが、何か新しいモノ、コトを求める人たちが集まる場でもあり、将来に向かっての種まきと考えております。

MEL の紹介ビデオは、2月に開催しました東京でのワークショップおよび3月のシーフードショー大阪の模様と東町漁協様にお越しの養殖および加工現場シーンを取り込み、内外を意識した5分間バージョンと20分間バージョンを作成しました。活用いただける場がありましたら事務局にご連絡ください。

また、新 MEL として案内パンフレットはじめノベルティグッズ、イベント出展の際のパネル等も充実させました。今年も積極的に各種イベントに参加しますので、認証取得者の皆様の認証付き商品を広くご紹介したく考えております。是非、機会を活用ください。



7. 会員入会情報

今月は、ベニレイ様から入会の申し込みをいただきました。また、団体では日本缶詰・瓶詰・レトルト食品協会様と日本冷凍食品協会様からも入会内定をご連絡いただいております。何れも新年度4月からの会員となります。

なお、日缶協、冷食協とも会員の皆様に CoC 認証を取得いただき MEL ロゴマーク付きの加工品の生産販売への取り組みを期待しております。

2016年12月に設立された MEL 協議会も、あっという間に実質3年目の正念場に差し掛かっております。何と云っても、皆さまからの強い期待は「早く GSSI の承認をとって欲しい」であります。特に今月は生産者からだけでなく、小売業からも様々なコンタクトがあり、日本の水産エコラベルを取り巻く環境が大きく動く予感がしています。皆様の一層のご理解をよろしく申し上げます。

以上